

原因分析報告書要約版

産科医療補償制度
原因分析委員会第七部会

1. 事例の概要

1) 妊産婦等に関する情報

経産婦

2) 今回の妊娠経過

妊娠 39 週 1 日 胎児心拍数陣痛図で胎児心拍数基線正常脈、基線細変動中等度、一過性頻脈あり、明らかな徐脈を認めない

3) 分娩のための入院時の状況

妊娠 39 週 4 日

21:00 出血あり、分娩管理目的にて入院

4) 分娩経過

妊娠 39 週 4 日

21:12 胎児心拍数陣痛図で胎児心拍数基線 180 拍/分の頻脈、一過性頻脈消失、基線細変動消失を伴った繰り返す変動一過性徐脈を認める

21:50 胎児機能不全のため帝王切開により児娩出

胎児付属物所見 脘帶卵膜付着、臍帶過捻転あり、胎盤病理組織学検査所見で絨毛辺縁部分に複数個所の陳旧性胎盤梗塞病変あり

5) 新生児期の経過

(1) 在胎週数:39 週 4 日

(2) 出生時体重:2400g 台

(3) 臍帶動脈血ガス分析:pH 7.08、BE -13.5mmol/L

(4) アプローチスコア:生後 1 分 0 点、生後 5 分 1 点

(5) 新生児蘇生:人工呼吸(ハグ・マスク、チューブ・ハグ)、胸骨圧迫、気管挿管

(6) 診断等：

重症新生児仮死、重症低酸素性虚血性脳症

(7) 頭部画像所見：

生後 3 ヶ月 頭部 MRI で脳室拡大、硬膜下血腫を認め、大脳基底核・視床、脳幹部に信号異常を認め、低酸素性虚血性脳症の診断

6) 診療体制等に関する情報

(1) 施設区分：病院

(2) 関わった医療スタッフの数

医師：産科医 2 名、小児科医 1 名

看護スタッフ：看護師 4 名

2. 脳性麻痺発症の原因

- (1) 脳性麻痺発症の原因は、妊娠 39 週 1 日から妊娠 39 週 4 日の受診までの間に生じた胎児低酸素・酸血症が出生時まで持続したことによって低酸素性虚血性脳症を発症したことであると考える。
- (2) 胎児低酸素・酸血症の原因は、臍帯血流障害および胎盤機能不全の両方の可能性がある。

3. 臨床経過に関する医学的評価(2020 年 4 月改定の表現を使用)

1) 妊娠経過

妊娠中の管理は一般的である。

2) 分娩経過

- (1) 妊娠 39 週 4 日、妊娠婦からの電話連絡への対応(出血が多いという訴えに対し来院を指示)は一般的である。
- (2) 入院時の胎児心拍数陣痛図の判読(胎児心拍数基線 180 拍/分と高め、変動一過性徐脈頻発と判読)と対応(超音波断層法実施、胎児機能不全と判断し帝王切開決定)は、いずれも一般的である。
- (3) 帝王切開決定とともに A 医療機関小児科へ連絡し、帝王切開時に立ち会いとしたことは一般的である。
- (4) 帝王切開決定から 30 分後に児を娩出したことは適確である。

(5) 脊帶動脈血ガス分析を実施したことは一般的である。

(6) 胎盤病理組織学検査を実施したことは適確である。

3) 新生児経過

A 医療機関小児科医師による新生児蘇生(バッグ・マスクによる人工呼吸、胸骨圧迫、気管挿管、チューブ・バッグによる人工呼吸)および新生児仮死・呼吸障害のため A 医療機関へ新生児搬送したことは、いずれも一般的である。

4. 今後の産科医療の質の向上のために検討すべき事項

1) 当該分娩機関における診療行為について検討すべき事項

出生時点で立ち会い小児科医師の管理下であるため児の診療録はない(「原因分析に係る質問事項および回答書」による)と回答されているが、自施設で出生した新生児の状態や、その際に行われた処置、アプローチの内訳等については他施設の医師が対応した場合においても、その内容を確認し自施設の診療録にも記載することが望まれる。

2) 当該分娩機関における設備や診療体制について検討すべき事項

事例検討を行うことが望まれる。

【解説】本事例は妊娠 38 週 2 日以降、在胎週数における推定体重において胎児体重基準値-1.5SD 以下の胎児発育不全が認められている。妊娠中に胎児発育不全が認められ、児が重度の新生児仮死で出生した場合や重篤な結果がもたらされた場合は、その原因検索や今後の改善策等について院内で事例検討を行うことが重要である。

3) わが国における産科医療について検討すべき事項

(1) 学会・職能団体に対して

入院前に発症した異常が胎児低酸素・酸血症を引き起こしたと推測される事例を集積し、原因や発症機序についての研究を推進することが望まれる。

(2) 国・地方自治体に対して

入院前に発症した異常が胎児低酸素・酸血症を引き起こしたと推測される事例の発症機序解明に関する研究の推進および研究体制の確立に向けて、学会・職能団体への支援が望まれる。